

平成27年12月7日（月曜日）

午前10時1分開会

会議に付した案件

○概要説明

商工観光労働部

1. 本県観光に係る経済効果等調査結果（概要）について
2. 観光における人材育成（観光戦略プロジェクトチーム）について
3. 外国人観光客の受入環境整備について

総合政策部

1. 航空路線の利用状況等について

○協議事項

1. 提言について
2. 次回委員会について
3. その他

出席委員（12人）

委員	長	押川	修一郎
副委員	長	田口	雄二
委員		緒嶋	雅晃
委員		井本	英雄
委員		外山	衛
委員		山下	博三
委員		島田	俊光
委員		日高	博之
委員		井上	紀代子
委員		新見	昌安
委員		冨師	博規
委員		徳重	忠夫

欠席委員（なし）

委員外議員（なし）

説明のため出席した者

商工観光労働部

商工観光労働部長	永山	英也
商工観光労働部次長	畑山	栄介
観光経済交流局長	武田	宗仁
商工政策課長	日下	雄介
観光推進課長	福嶋	清美
記紀編さん記念事業推進室長	松浦	直康
オールみやざき営業課長	酒匂	重久

総合政策部

部参事兼総合政策課長	井手	義哉
総合交通課長	野口	和彦

事務局職員出席者

政策調査課主任主事	日高	壮
議事課主査	松本	英治

○押川委員長 それでは、ただいまから、総合交通・観光・経済対策特別委員会を開会いたします。

本日の委員会の日程についてであります。お手元に配付の日程（案）をごらんください。

本日は、商工観光労働部、総合政策部にお越しただき、本県観光に係る経済効果等調査結果、観光における人材育成、航空路線の利用状況などについて概要説明をいただきます。

その後、委員会としての提言について、及び次回委員会について御協議いただきたいと思います。このように取り進めてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○押川委員長 それでは、そのように決定をいたします。

執行部入室のため暫時休憩いたします。

午前10時2分休憩

午前10時3分再開

○押川委員長 おはようございます。それでは、委員会を再開いたします。

商工観光労働部、総合政策部においでいただきました。

執行部の皆様の紹介につきましては、お手元に配付の出席者配席表にかえさせていただきたいと思います。

早速ですが、概要説明をお願いをいたします。

○永山商工観光労働部長 おはようございます。よろしく願いいたします。きょうは、商工観光労働部と総合政策部で参っております。きょうは、観光の経済効果等を中心に2つの部から説明をさせていただきます。

改めて申すまでもないことでありますけれども、本県の経済の活性化を図るためには、国内外から外のお金、外貨をしっかり稼いで、それを地域内、宮崎県内で循環させる取り組みが極めて重要であると考えております。その外貨を獲得する手段として、観光というのは極めて重要な要素であると思っております。観光客の滞在日数の増加であるとか、あるいは観光消費額、あるいはリピート率の向上等々が重要であるというふうに考えております。このため、県としましては、総合計画の中で観光の再生ということを柱として掲げました。また、観光振興の計画も策定をし、あわせて、現在策定中のみやざき産業振興戦略の中でも、地域資源を活用した魅力ある取り組みとか、あるいは観光関係の中核人材の育成等によって、観光産業の振興を図るといった具体的な施策について、現在検討を行っているところであります。

本日は、お配りをしております特別委員会資

料の目次にありますとおり、商工観光労働部から、本県観光に係る経済効果等調査結果など3件を、総合政策部から、航空路線の利用状況等について、それぞれ説明をさせていただきます。

詳細につきましては、担当課長からやらせていただきます。

私からは以上でございます。よろしく願いいたします。

○福嶋観光推進課長 本県の観光に係る経済効果等調査結果の概要について御報告をいたします。

委員会資料の1ページをお開きください。

まず、1の外国クルーズ船に係る経済効果等調査の概要についてであります。

(1)の調査概要につきましては、細島港、油津港に入港したスカイシー・ゴールデン・エラ、クァンタム・オブ・ザ・シーズ、ボイジャー・オブ・ザ・シーズの乗客を対象にアンケート調査を実施し、そのデータから本県内の消費支出や経済波及効果等を算出、推計したものであります。

(2)の調査結果ですが、中ほどの表にありますとおり、県内での推計消費総額は、スカイシーが3,392万円、クァンタムが5,823万円、ボイジャーが7,962万円となっており、寄港3回合計では1億7,176万円となります。スカイシー及びボイジャーにつきましては、本県が最終寄港地であったこと、バスツアーのコースに大型商業施設が含まれていたことなどから、クァンタムと比較して、乗客1人当たりの消費額が高くなっております。

また、この表にありますとおり、先ほどのアで算出した推計消費総額に、県内自給率を乗じた額と、各産業で誘発された消費額を推計し、その合計値を県内経済波及効果として算出しま

すと、下の表の右下になります。寄港3回合計で1億7,004万円となります。

次のページのウ、県内観光や受入体制の満足度につきましては、（ア）の調査結果のとおりであります。ページの中ほどの（イ）で、調査結果から見えてくるものとしまとめてまとめたところでもあります。

食事など非常に高い満足度をいただいているものもある一方で、商業施設における免税対応や外国語対応、Wi-Fi設置状況などの受け入れ体制に課題が見受けられました。

全体を総括しますと、外国クルーズ船のお客様は、爆買いとまではいかないものの、一定の消費行動があったということがうかがえる結果となっております。

今後は、より一層県内経済の循環につなげるため、アンケート結果を地元市町や関係事業者などと共有し、受け入れ環境整備を進めるとともに、クルーズ船のさらなる誘致を図ってまいりたいと考えております。

3ページをお開きください。

2の東九州自動車（宮崎—大分間）開通に伴う観光動向調査の概要についてであります。

（1）の調査概要につきましては、川南パーキングエリアと道の駅北川はゆまに立ち寄った観光客を対象にアンケート調査を実施し、そのデータをもとに、本県観光の実情を分析して、消費支出等を算出いたしました。

調査結果につきましては、（2）のとおりであり、各項目の分析結果については、各表の右側に記載をしております。

アのアンケート対象者を見ると、半数以上が県外であり、イの高速道路利用の目的では、県外客の60%以上が観光目的となっております。

また、ウの今回目的地とする観光地は、高千

穂峡、青島神社といった観光地が高い人気となっており、エの今回の県内での滞在日数につきましては、県外客では、1泊が最も多かったものの、35.5%が日帰りとなっております。

次のページとなりますが、オの観光旅行をする際に重視するポイントでは、ほぼ半数が食事と回答しており、カの観光旅行のきっかけとなる情報源についてはインターネットの旅行サイトが40%以上を占めております。キの東九州自動車の開通が今回のきっかけになったかという項目では、きっかけの一つも加えると、65%以上がなっていると答えており、クの1人当たりの平均消費金額では、県外客が高い傾向にあり、宿泊費や飲食費などに、その傾向が顕著にあらわれております。

（3）の調査結果から見えてくるものとしましては、宮崎大分間の東九州自動車道の開通は、近隣県在住者を中心に来県を促しており、今後さらなる誘客促進を図るためには、近隣県に加え、北部九州や中四国地方への観光PR等を強化する必要があると考えております。

また、日帰り客が多いことから、滞在時間を延ばし、消費金額の増額につなげるため、周遊観光の仕組みづくりやオプションプランの新設等の取り組みも重要になると考えております。

5ページをお開きください。

次に、3のサーフィンに関する経済効果等調査の概要についてであります。

（1）の調査概要につきましては、宮崎市の木崎浜と日向市のお倉ヶ浜を訪れたサーファーを対象にアンケート調査を実施し、そのデータをもとに県内のサーフ環境等を分析し、消費支出等を算出、推計したものであります。

調査結果につきましては、（2）に記載しておりますが、アのアンケート対象者につきましては

は、県外サーファーの割合が、木崎浜で43.8%、お倉ヶ浜では78.9%を占めており、特に福岡県が多くなっております。

また、イのサーフィン歴につきましては、木崎浜が初心者から幅広く分布しているのに対し、お倉ヶ浜では、ベテラン層の割合が高くなっております。

ウの今回のサーフィンの日程では、木崎浜の県外客では、3泊以上が半数近くいる一方で、お倉ヶ浜では、県内客、県外客ともに日帰りが多くなっております。

次のページとなりますが、エの宿泊場所につきましては、木崎浜では、ホテル、旅館、お倉ヶ浜では、車中泊の割合が高くなっており、オの当サーフポイントを選ぶ理由では、いずれも波のよさが突出しております。また、カの宮崎でサーフィンをする主な月では、7から9月の夏場がピークと考えられる一方、一番左ですけれども、1年中という割合も高くなっております。

キの県内での年間推計消費支出につきましては、木崎浜においては、県外サーファーの宿泊数が多いこともあり、1人当たりの推計消費額が、お倉ヶ浜よりもかなり高くなっております。

なお、その下の欄、県内での年間推計消費総額につきましては、今回の調査結果及び県内サーフショップからいただいたデータ等をもとに、年間に引き直して推計をしており、参考値としての取り扱いになります。

（3）の調査結果から見てくるものとしましては、本県のサーフィン環境は、通年で楽しめるものであり、特に県外客においては、長期滞在及び大きな消費につながる観光資源であると言えます。また、木崎浜、お倉ヶ浜の両ポイントで、客層などの違いも見られることから、ターゲットを絞ってサーフィン環境をPRし、誘

客を図るとともに、県内での消費額を高める取り組みを行っていくことが重要と思われれます。

本県の観光に係る経済効果等調査結果については以上であります。

7ページをお開きください。

次に、観光における人財育成（観光戦略プロジェクトチーム）について、御説明いたします。

1の観光戦略プロジェクトチームの目的についてですが、本年6月に策定しました新しい観光振興計画に基づき、国内外からより多くの観光客を呼び込むための新たな戦略の構築を目的として、官民一体となったみやざき観光戦略プロジェクトチームを立ち上げ、滞在日数や観光消費額等を延ばすための新しい取り組みを企画・立案するとともに、稼ぐ観光のための人財を育成することとしました。

2のプロジェクトチームのコーディネーターですが、国の観光カリスマで、JTIC SWISSの代表であります山田桂一郎氏を招いております。

3の企画・立案のテーマについてですが、ゆったり元気をプロジェクトチームのコンセプトに、山田氏と県内の観光関係者で協議を行い、本県の優位性があり、本県ならではの観光消費につながるという視点で、プロジェクトチームの企画・立案テーマを、食とアクティビティ（体験）に設定いたしました。

4の進め方ですが、官民の観光関係者で、食とアクティビティの両テーマごとにチームをつくり、各チームのメンバーが取り組んでいる事業やその課題などを分析し、コーディネーターによる指導、助言のもと、問題解決のための本県ならではの新しい取り組みの企画・立案を行う予定です。

5のプロジェクトチームのこれまでの取り組み

みと今後の予定についてであります。6月の補正予算可決後、直ちに準備に入りまして、7月には、コーディネーターの山田氏とともに、西都原、青島、綾など、県内の観光地を視察いたしまして、観光事業者や行政職員等と意見交換を行いました。

8月には、山田氏を講師として、県内の観光事業者や行政職員等を対象に人財育成基礎講座を開催し、その後にプロジェクトチームの企画・立案テーマ選定について、参加者との意見交換を行いました。

そこで決定したテーマをもとに、プロジェクトチームのメンバー募集を行い、応募してきた官民35名のメンバーによるプロジェクトチームを結成し、10月に発足式を行ったところです。プロジェクトチームのメンバーは、宿泊業者や旅行業者、観光施設事業者、観光協会職員、市町村職員などで構成されています。

なお、この機会に山田氏には、観光振興懇談会における講話や観光審議会委員との意見交換を行っていただきました。現在、各チームごとに適宜協議や視察などを行っており、今月に活動の中間取りまとめを、最終的には、来年の2月に知事の前で活動報告を行い、その後、チームメンバーを中心に新たな取り組みを実践していくこととなります。

なお、観光における人財育成につきましては、非常に重要でありますので、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

人財育成につきましては、以上であります。

次に、8ページをごらんください。

外国人観光客の受け入れ環境整備について御説明いたします。

まず、1のWi-Fi環境の整備についてであります。(1)の整備の趣旨といたしましては、

観光人観光客からニーズの高い無料Wi-Fiを利用できるエリア拡大のために環境整備を行うことにより、外国人観光客の受け入れ環境強化を図るものであります。

次に(2)の整備内容についてですが、まず、①の県統一サーバーの設置については、Wi-Fiを利用する際の認証方法の統一を目的として、県のサーバーを設置し、県内市町村等と共同利用できるWi-Fiの共通認証システムを構築したものです。これにより、市町村等による観光Wi-Fi環境の整備が促進されると考えております。

また、②のアクセスポイントの設置について、県では、青島や飫肥城などの宮崎県観光案内板等9カ所に整備をしております。市町村関係では、日南市や綾町等の5市町が県共通認証システムを利用し、整備する予定であり、今後も引き続き、市町村等と連携して、アクセスポイントの設置の推進を実施いたします。

③の整備の効果についてですが、資料にありますとおり、認証方法を統一させることにより、利用者の利便性が向上すること、県観光案内板QRコードによる多言語の観光地情報を、外国人観光客も取得可能となること、サーバーを共同利用する市町村等の開発コストが縮減できること、官民連携によるWi-Fi利用エリアの拡大が推進されること、以上の4点の効果が期待されます。

なお、今回のように、市町村等と連携して、Wi-Fiのエリアを拡大するために、県によって統一のサーバーを設置することは、九州で初めての取り組みとなります。サーバーの運用は、8月25日から開始しており、アクセスポイントの設置も随時進めているところであります。

次に、9ページをお開きください。

2の外国人個人旅行者に対する二次交通対策事業につきましては、(1)に記載のとおり、今後、増加が予想される外国人個人旅行者が移動しやすい環境を整備するため、宮崎交通と連携し、宮崎交通の路線バスを1,000円で1日乗り放題できる新たな企画乗車券の販売にあわせ、外国人個人旅行者向けパンフレットの多言語作成やバス停の英語表記等を行い、外国人個人旅行者の利便性向上を図ったところであります。

次に、(2)のパンフレットの内容につきましては、英語、ハングル、中国語の繁体字、簡体字の多言語で作成しております。また、②のとおり、パンフレットでは、県内8コースのモデルルートを紹介し、外国人の皆様にはわかりやすくしたところであります。

次に、(3)のとおり、企画乗車券の販売については、宮崎交通が11月6日から、「ビジット みやざき バス パス」として販売を開始しており、宮崎空港や宮崎駅など県内6カ所で購入いただけます。なお、宮崎交通からは先月に販売をスタートして好調な売れ行きであると聞いております。参考として英語版のチラシを添付させていただきます。

最後に、(4)のとおり、このパンフレットの作成にあわせて、橋通りや主要観光地など83カ所の主要バス停の英語表記や番号をつけるとともに、今年度末までに多言語による車内案内を実施予定であります。

次のページをごらんください。

3の消費税免税店（輸出品販売場）についてであります。

中国人観光客の爆買いと言われる消費行動を初め、外国人観光客のインバウンド事業を取り組むためには、県内の免税店をふやし、買い物環境を整えていくことが重要となります。

(2)の県内の免税店数ですが、ことし10月1日現在で127店舗となっており、昨年10月に対象品目が消耗品に拡大されて以降、大幅に伸びております。ちなみに、12月1日から、みやざき物産館KONNEでも免税店としての体制が整ったところであります。

県の取り組みとしましては、(3)にありますとおり、昨年からの消費税免税制度に関する説明会を実施しており、今後も県南及び県北での説明会を予定しております。

また、(4)の免税手続円滑化の支援としまして、パスポートリーダー機器等に対する補助制度のほか、窓口での手続説明のために多言語パンフレットの作成を進めているところであります。

次に、4のインバウンド講演会等について、(1)にありますとおり、インバウンド新時代へ向けた機運醸成を図るため、平成27年7月23日に、EGLツアーズの袁社長をお招きし、香港が日本に求めるおもてなしについて御講演いただきました。また、平成27年10月29日には、ジャパン・インバウンド・ソリューションズの中村社長をお招きして、インバウンド新時代の幕開けについて御講演をいただいたところです。

また、(2)のとおり、県内に在住する外国人住民と観光事業者等の意見交換会を実施するなどの取り組みを実施しております。

観光推進課の説明は以上であります。

○野口総合交通課長 総合交通課でございます。資料の11ページをお願いいたします。

航空路線の利用状況等について御説明を申し上げます。

まず、1の航空路線の利用状況についてであります。(1)の香港航空、「宮崎－香港線」についてでございますが、香港線は本年3月28日に

就航し、定期チャーター便として運航されておりましたが、10月28日から定期便としての運航を開始をしたところでございます。県議会を初め、関係者の皆様方の御支援をいただきまして、定期便化が実現をしたことを改めてお礼を申し上げたいと存じます。なお、運航日は、毎週水曜日、土曜日の週2往復でございます。ちなみに、鹿児島が、火曜、木曜、日曜、それから、熊本が、12月14日から月曜、金曜の運航を開始することとなっております、南九州3県でのデイリー運航となる予定でございます。

次に、香港線の利用状況でございますが、就航から11月末までの利用者数は1万5,591名、うち日本人が502名、外国人が1万5,089人、利用率は63.2%となっております。

この表をごらんいただきますと、7月以降の利用状況が若干落ち込んでおります。これは、10月24日までは定期チャーター便としての運航でありましたことから、航空券の販売先が限定をされておりましたことに加えまして、香港の旅行会社等からは、夏場、クルーズ船との競合もあったのではないかと伺っておるところでございます。

しかしながら、定期便化された11月以降、利用状況回復をしてきております。定期便化によりまして、販売チャネルが拡大されるなど、利便性が向上してきますことから、今後さらなる利用者の増加が図られるものと期待をしているところでございます。

次に、(2)のLCC（ピーチアビエーション）「宮崎—関西線」の就航でございます。

ことしの8月28日に就航しましたピーチ関西線は、1日1往復運航しております。運賃は、空席状況で変わりますけれども、4,590円から2万990円となっております。なお、利用状況でござ

いますが、就航から10月末までの搭乗率は85.7%と、会社のほうからは好調であるというふうにお聞きをしております。

次に、(3)のソラシドエア初の国際チャーター便「宮崎—高雄線」についてでございます。このチャーター便は、双方向のチャーター便として、宮崎発便の往路が10月17日、復路が10月20日に運航をされました。利用状況につきましては、宮崎発便の往路が155名、復路が153名で満席となりましたが、高雄発便の利用者は往復とも19名でございました。高雄発便の利用者が伸びなかった理由としましては、ソラシドエアによりまして、高雄でのツアーの発売時期がチャーター便運航の約1カ月半前と遅かったことや、直前に台風の接近があり、団体のキャンセルがあったためであるというふうにご伺っております。

続きまして、12ページをお願いいたします。

2の航空路線の安定化、利用促進のための取り組みについてでございます。

まず、(1)の国内線、国際線共通の取り組みであります。9月10日の空の日を記念した航空に親しむためのイベント、航空路線や飛行機を使った旅行をPRするみやざき空旅フェア、航空を含めた公共交通機関をPRする陸海空交通フェスタを実施しましたほか、航空会社さんに対し、路線の維持、充実に関する要望活動を行っております。

次に、(2)の国内線の取り組みにつきましては、航空会社の実施をします利用促進キャンペーン及びLCCが就航する際、航空会社に対しまして、カウンター設置などのイニシャルコストや就航当初のPR等への補助をいたしますとともに、新聞広告を掲載し、LCCの就航について周知を図ったところでございます。

また、(3)の国際線の取り組みについてでござ

ございます。県民等への利用者への補助といたしまして、6名以上の団体に対し、渡航費用の一部を補助する団体利用補助や児童生徒が参加する修学旅行などの交流事業を支援する修学旅行等補助、居住地と宮崎空港間を送迎する貸し切りバスの借上げ費を助成する送客バス支援、海外でビジネス活動を行う事業者に対し支援を行うビジネスサポートの4つの補助事業を実施いたしております。補助額につきましては、利用者数などにより変動いたしますけれども、例えば、団体利用補助の例で申し上げますと、6名から9名の県民の団体が、宮崎空港の国際定期便を往復利用して海外へ渡航された場合、1団体当たり3万円の補助額となっております。

次に、国際線のPR・キャンペーンといたしまして、イオン等で、路線や国際定期便を利用した旅行商品、就航先の観光地等をPRする韓国・台湾・香港トラベルフェアを開催しており、また、8月の末に宮崎におきましては、トラベルフェアとあわせまして、韓国や台湾の料理屋台も出展をするなど、県民等に対しまして路線のPRや韓国・台湾観光への興味喚起を行っているところでございます。

また、空港会社と共催になりますけれども、ソウル線の乗り継ぎキャンペーン、あるいは台北線のパスポート取得キャンペーンといった利用促進キャンペーン、さらには、ラジオの人気MCと行く韓国モニターツアー、そういったものも実施し、利用促進を図っているところでございます。

このほか、3月には学校関係者等を対象にした修学旅行セミナーを開催をし、国際定期便を利用した修学旅行の増加を図ってまいりたいと考えております。

今後とも、こうした取り組みを積極的に進め

ますことによりまして、航空路線の安定化、利用促進につなげてまいりたいというふうに考えております。

総合交通課からは以上でございます。

○押川委員長 ありがとうございます。執行部の説明が終わりました。御意見、質疑等がございましたら、御発言をお願いをしたいと思います。どなたからでも結構であります。

○緒嶋委員 クルーズ船の経済効果を上げるためには、地産地消じゃないけれども、地産外消をいかに高めるかと。電気製品とか化粧品というのは宮崎県では余りつくっていないんじゃないかなと思うんです。食料品なんかは宮崎県産がある。これは、やはり、地産外消をクルーズ船を対象に高めると。そのことでまた海外での宮崎県の食品というか、農産品なんか、向こうでまたそれを購入するとかいうようなことになると、リピーターとともに、裾野を広がるんじゃないかと思うんですけれども、そのあたりはどういうふうに考えておられますか。

○福嶋観光推進課長 今回こういった経済効果の調査をやってみまして、やはり、そういう地元でとれたものとか、地元で付加価値をつけたもの、こういったものを提供していかないと、県内波及のその効果が上がってこないということがよくわかりました。一番やっぱり効果があるのが、飲食をしていただくということが、一番高く県内波及及ぼすということもわかりましたし、そういったことを、地元受け入れを行う市町村とか事業者の皆さんと共有して、そういったものを積極的に打っていくということが大事なんだなというのが今回の調査でわかったということでございます。

○緒嶋委員 それと、やはり最後の寄港地でするだけ購入しようというのは、これは、観光

客の一つの心理ではないかなというふうな気がするんですが、クルーズ船のコースを考えた場合、最後の寄港地に油津でも細島でもそういうことがこちらの提案でできるのかというのは、どんなもんですか。

○福岡観光推進課長 今、実際、日南のほうは10市町で、あと日向のほうも、受け入れに関しては、ラストポートであるかどうかにかかわらず、非常におもてなしを頑張っているという気はしております。そこは、恐らくほかの八代とか長崎とか福岡に負けていないというか、逆にいうと、ほかはやっていらっしゃらないところを宮崎が一生懸命やっているというふうに私は認識をしております。

○緒嶋委員 そういう宮崎の好感度というか、それをいかに高めることによって、クルーズ船の対応も、いろいろ寄港していただくと経済効果はあることだけでも、地元とすればやっぱり大変な面もいろいろな意味であると思うんです。やはりそれに手間をとられるとか、いろいろ準備が大変だとかあるけれども、やはり、観光の推進をすることは、部長も言われたとおり、経済効果が大きいし、また、この宮崎県の活性化のためには、やはり大変な力にもなるわけなので、今後とも、どういう手法をとることが、このクルーズ船のメリットというか、経済効果を高めるかというような視点での研究というのはいろいろやられるということであるので、そこ辺をいかに高めるかというのが今後の課題かなど。

それと、福岡なんかというのは、1週間何隻も寄港するわけですよね、博多なんかは。そしてまた、宮崎県は、今からが緒についたという感じだから、本当にこれが経済効果として宮崎県の発展のためにどこまで対応できるのかとい

うのが大きな課題だと思うんですけども、将来、その見通しというか、そういうことについては、どういうふうに取り組まれているわけですか。

○福岡観光推進課長 まず、県内循環を高めるために、どういった品ぞろえをして、どういうおもてなしをするか、リピーターをふやすかということもありますし、あと、今、ファーストポートのお願いなどもしておりますけれども、それと並行して誘致活動をしっかりやって、寄港回数をふやしていただくと。来年は目標としては20回というのを掲げていますけれども、それをまたふえせるようにやっていくということが大事なんじゃないかというふうに考えています。

○緒嶋委員 ぜひ今後の取り組みというのが一番重要だと思いますので、その点は努力していただきたいと思います。

東九州自動車道の調査の川南パーキングエリアとはゆまで立ち寄り客なんかを調査して、その経済効果というか、いろいろな調査がされているわけですけども、中央道が10キロ余り延びたことで、高千穂に来る人にとって、北方のよっちみろ屋が、やっぱり一つの休憩地としての位置づけが物すごく高くなって、経済効果は恐らく相当なものじゃないかなど。というのは、一つは、北のほうから、大分のほうから見た方は、延岡から宮崎に行くには有料道路なわけです。そうすると、中央道は無料だから、やっぱりどちらかという、心理的には金がかからないところを通りたいというのがあるんじゃないかなと思うし、高千穂という一つのポイントがあるので、そうすると、よっちみろ屋は、駐車場はいつも満杯で、私はいつも通うわけですが、あそこの経済効果もやっぱり調べてみられ

る必要が私はあると思うんです。

今回、たまたま東九州ということで、そこは調査されなかったと思うんですけども、中央道が4月の下旬に開通してから、相当な効果があると私は思いますし、延岡市も、北川はゆまに次いでここにも力を入れているというふうに思います。どちらかという、もう駐車場が足りないため、よっちみろ屋に寄る人が、寄っちみれんじゃないかという感じになっているのが実情なわけですね。そういうことになると、名前を変えてもらわなくてはいけないんだけど、そういうふうな感じで盛況なわけですので、やっぱりこの中央道はそれだけ延伸することによって、先ほどのサーフィンも、お倉ヶ浜には、熊本、福岡の人も、中央道218号線、あるいは325号線を通して来る人が物すごい多いんですよ。それは、道路がよくなったため、日帰りもできるようになったということで、熊本の県議会議員なんか、サーフィンに来ていますということを使うわけですね。熊本は、有明海沿岸はサーフィンのポイントがなかなかないわけですね。そうすると、やはり、日向灘を目指してくるということになるわけですので、やはり、中央道のメリットが、やっぱりサーフィン客を含め、そのほかのいろいろな観光の意味を含めて、物すごくやはり大きな意義を持っているんじゃないかなというふうに思いますが、そのあたりはどう考えておられますか。

○福嶋観光推進課長 今回のサーフィンの調査の結果を見て、私たちもちよっと驚きと喜びといますか、あつたんですけれども、本当に熊本ですか、福岡あたりから多くお客さんが見えていて、恐らく福岡からは、東九州自動車道が大分から通ったことによって、さらに加速されたんじゃないかなというふうに思っております。

す。

よっちみろ屋の効果なども、観光地の入り込み調査のほうでは拾えるんじゃないかなと思いますので、その辺のふえ方なんかも見ながら、また、中央道の優位性といいますか、そういう道路の整備の必要性なんか、また考えていく必要があるんじゃないかなというふうには思っています。

○緒嶋委員 特に、5月のゴールデンウィークなんか、高千穂に12万人の人が来ているわけです。単純に考えても、その半分はよっちみろ屋のほうを通して私は来ていると思ってるんです。そうすると、シルバーウィークというんですか、秋のあのときも、高千穂に11万人ぐらい来ているわけで、やっぱりそういうことになると、よっちみろ屋も一つのポイントとして調査されることは、全体的な流れをつかむ意味でも、私は意義があるんじゃないかなという気がしますので、その辺を頭に入れながら、今後調査してもらいたいということを要望しておきます。私はこれぐらいで。

○外山委員 この観光戦略プロジェクトチーム、観光事業に直接携わる官民35名、この構成というのは、全県下にまたがっているのか、あるいは旅館業組合の会長であるとか、そういう役職の方がされているのか、これどういう構成になっているんですか。

○福嶋観光推進課長 先ほどの資料にありますけれども、宿泊業、旅行業、観光施設といったところが入っているんですけども、一応都城であったり、串間であったり、県下全域から来ていただいているということと、あと一応若手の方をってお願いはしていたんですけども、長が来ているところもあります、若手が来ているところもあります。もう本当に老若男女いろ

んな方が入り乱れてのチームになった、まさに公募という形でしたので、偏りも若干あるんですけれども、同じ市町村から複数来てたりとかいうことはあるんですが、一応さまざまな方々が参画しているという状況です。

○外山委員 ということは、このチームは定期的に会合を開催されるわけですか。決まっているんでしょうか。

○福岡観光推進課長 定期的に集まるのは発足式のときと、あと今週ある中間報告と2月の最終報告というのが必ず来てくださいということになっているんですが、その間にも頻繁に集まって話し合い等をやっております、今着々と中間報告の準備をしているという段階です。

○外山委員 では、それぞれの地域のいろんな団体がありますよね。若い議員が集まったり、チームつくったり。そのチームは、それと連携して、そういう情報を取りまとめているわけですかね。まだ、できたばかりだから、そこまで至ってないのでしょうか。

○福岡観光推進課長 一応参画していただいた方々でのチームとしての動きにはなっていると思いますけれども、ひょっとしたら、地元でいろんな方から助言をもらったりとかして臨んでいるということもあるかもしれないです。

○外山委員 もうお答えはいいですけども、よくこういうチームをつくと、携わった人間だけが内輪で物事を進めていって、なかなか外部に波及しないこともありますんで、できれば、少しでも内輪だけの集まりじゃないようなチームにしてもらいたいと思います。これは要望です。

続けていいですか、ちょっと。宮交さんの1日1,000円のパス券のところですけども、これは、県と宮崎交通が連携とありますが、費用的

なもので、県の出費とか何か補助とかあるんでしょうか。宮交の全く単独なんでしょうか。

○福岡観光推進課長 県のほうで助成をしているという状況です。宮交も手出しをしつつ、県も助成をして、こういったパンフレットの作成とかやっているという状況です。

地方創生の交付金を活用しております、パンフレットの作成とあとモデルルートの多言語での社内アナウンス、あと交通アプリの作成、ここに約2,000万円ということで事業を実施しているということです。

○外山委員 ということは、いろんな広報活動には助成するけれども、運賃には助成はないということですね。

○福岡観光推進課長 それはございません。

○外山委員 もう一点だけいいですか。免税店ですけども、(4)ですけども、県内の免税店が設置となり得る対象店舗って、免税店というのは、もう希望すればどこでも申請できるのでしょうか。免税店になり得る店舗というのは、何か縛りがあるんですか。

○日下商工政策課長 免税店につきましては、もちろん免税対象の商品、種類がございますので、そういった種類を販売をしている店舗につきましては、もちろんいろいろさまざまな手続は必要でございますけれども、基本的には、手を挙げて、税務署に対して申請手続として免税店になることはできるというふうに考えています。

○外山委員 さまざまパスポートリーダーとか端末機、機器に対する補助金交付とありますけれども、これも、お店の規模とかによって変わってくるのか、パーセントで決めるのか。どういう基準で補助をするのでしょうか。

○日下商工政策課長 機器について、今回のこ

の補助金につきましては、対象となる機器が、免税にかかわるこちらに書いてあるパスポートリーダーであったりとか、読み取りのそういった機械であったりとか、こういった種類のものにつきましては、上限はございますけれども、対象として支援をさせていただいているところでございます。

○外山委員 ということは、もう県内に127店舗あるわけですね。じゃあ、その補助金交付というのは、その規模によって当然変わってきますよね。小さいお店が申請して通って、この3つだけを取りそろえるならば安いだろうけれども、大きい店舗になると補助金も大きくなる。どれぐらいかかるんでしょうか。難しい質問ですが。

○日下商工政策課長 上限額がございますので、店舗ごとに、大きい店舗であろうが、小さい店舗であろうが、それほどそういった意味では、補助金の額としては余り違いはないのかなというふうには思っています。あくまで対象となる機器が限定をされているものですから。

○山下委員 1ページ、2ページの中で、かなり経済効果が出てるとのことなんですけど、特に、2ページの7番の、食事の満足度という項目が高いということで、大変ありがたいことだなという気持ちでデータを見させていただいたんですが、例えば、どういう食事に興味を持っているんでしょうか。

○福嶋観光推進課長 食事については、昼食が中心になるかと思えますけれども、バスツアーに参加された方は、割と大きいところといたしますか、ホテルの昼食会場とかで100人単位とかで食事をされております。また、ツアーに参加されなかった方は、御自身で、例えば油津の商店街に出掛けていたりして、そこでラーメン

とか、そういうものを食べたりされています。あとは砂糖がコースに入ってますと、食べ歩きというのがあったりしますので、どこをどう捉えて満足度が高かったのかということまでは把握してないんですけども、例えば、ホテルで食事をするときには、台湾のお客さんであれば、温かいものを出すとか、相手の要求に応じていろんなメニューを、限られた予算の中で考えて出しているらっしゃると。満足度を高めるための努力はしつつ、焼きそばとか、そういったものを食べていただいたということは聞いてるんですけども、ちょっと具体的にどう満足度があったのかということまでは分析できていません。

○山下委員 私もちょっと聞いたことがあったんですけども、ホテルに入って、バイキングで食べる人たちが多かったということを知ったんですが、大体昼食に1人単価というのはどれぐらいなんですか。

○福嶋観光推進課長 大体1,000円から1,500円というところだと聞いております。

○山下委員 わかりました。それから、これ食料品というのが、希望商品として出ていると思うんですが、お土産として持って帰る食料品というのはどういうものに興味を持っているのか。加工品なのか、何かそこ辺のデータはないのですか。

例えば、私たちも香港とか台湾に行くときに、現地に着いたときには、宮崎からだけの帰りじゃなくて、全国から一緒に台湾とか香港に着くわけです。向こうの人たちが買っているお土産というのがどういうものかというのが気になって見ていると、非常にやっぱり日本から果物類、例えば、北海道とかもう長野県とか東京から帰ってくる人たちは、もう山のように果物類をお土産

産として持って帰ってきているものですから、宮崎からのお土産としての食料品というのを、どういふものに興味を持って持って帰ってくるのかなと思ひまして。

○福嶋観光推進課長 果物が持って帰れるのは恐らく香港だろうと思ひます。クルーズ船の場合は、台湾、上海のお客様が大半ですので、なかなか持ち込めないと。実際ここで買われたのは、恐らくお菓子とかカップラーメンのたぐいだったのではないかと思ひます。

○山下委員 香港線も就航しているわけですから、できたら、やっぱり本県の特徴なるものを、向こうの人たちが好むものです。ターゲットを絞って、そういうものをどうやって興味を持たせて持って帰らせるか、そこの知恵が必要かなと思ひんですが、その考え方はないですか。

○福嶋観光推進課長 どのような国のお客様が来られるかによって、やっぱり品ぞろえというものは考えていく必要があると思ひます。クルーズ船は、先ほど言ひましたように、中国のお客さんとか台湾のお客さんですので、そういった方々が好むようなものをやっぱり準備するということ。それと、香港ですと、空から入ってくるお客様で、空ビルのほうが今果物をたくさん並べて買っただいてというふうなことがありますので、やっぱり相手によって品ぞろえを変えていくことが大事なんだろうというふうには思ひます。

○山下委員 よろしくお願ひします。

○押川委員長 よろしいですか。山下委員、いいですか。

○山下委員 はい。

○日高委員 そのサーフィンに関する調査の件なんですけれども、経済効果、居住地、構成と調査してあつてかなりすごいなと思ひているん

です。お倉ヶ浜は海岸ばたですので、もう以前から地方創生の元祖みたいな感じで、住み着いている状況で、相当な数の家もニュータウンみたいなのができて、そこに住んでいるんです。その辺もあり伸びてきているのかなと思ひます。

あとこの状況を考えると、両施設の受け入れ状況って十分なのかなってちょっと心配なところがあるんですけれども、その辺についてはどういふふうな考え方を持っているのか、ちょっとお聞かせください。

○福嶋観光推進課長 受け入れ状況というのは、例えば、シャワーとか駐車場とか……

○日高委員 書いてあるけれども、今ので十分なのか、それとも今後いろいろやっていくのか。

○福嶋観光推進課長 それぞれ県内10以上のサーフポイントがありまして、それぞれ市町村のほうでトイレを設置したり、シャワーを設置したりということなんですけれども、また、整備状況はさまざまであろうと思ひます。

この調査の中であるといいものというのを調査しておりましたところ、例えば、木崎浜では、シャワーとか飲食店、トイレといったものが上位に上がってきたと。お倉ヶ浜では、飲食店、更衣室、駐車場という御意見が多かつたということなんですけれども、シャワーも更衣室、駐車場、トイレ、こういったものも一応は整備されているということですので、足りないのか、ちょっと古いのか、狭いのか、そのあたりでこういった結果が出たのかなというふうには思ひます。地元市町村にも、これはフィードバックして、また整備をしていくということかなと思ひます。

○日高委員 あとぜひ調査してもらいたいのは、他県との違いです。宮崎は波もいいと、調査結果で書いてありますよね。突出している。例え

ば、オリンピック・パラリンピックのサーフィン競技を会場として誘致するのであれば、ほかの県との違いもやっぱり調査をする必要があるんじゃないかなというふうには思うんですけども、その辺はどう考えているのか。

○福嶋観光推進課長 まさに、今おっしゃられたように、本県が他県より優れているという優位性を示さないと、なかなかオリンピックの開催地としても選んでいただけないということで、今、いろいろ探して、波を客観的に分析できないかとかというところをアプローチしようとしているところです。

○日高委員 また、日向のほうの話なんですけれども、結構有名な海洋冒険家で、ちょっと名前は出せないんですけども、ジョーズというビルの5階か6階ぐらいの大きい波が来るところで挑戦する、情熱大陸とかに以前出ていた人が、やっぱり移住をしたいということが何か裏であるような感じがある。もうキムタクとかのコーチみたいな感じの方らしいんです。そういった人材がどんどん入ってきているんです。そういった人たちも、やはり、県としては生かしていかなくてはいけないと思うんです、人材を。違いを示す中では。そういった移住関係も、居住関係もやはり努めていってほしいなと、これは、UIJターンの施策の中でもとも思うんですけども、その辺はどういうお考えですか。

○福嶋観光推進課長 サーフィンのために移住してきた方がどれだけいるのかというちゃんとした調査というのはないんですけども、実際、それをやることによって、ひょっとしたら、宮崎の優位性とかもまた語られているのかもしれませんが、体感として、非常にサーファーの方が移住してきている方が多いなというのはあり

ますので、そのあたり、また次のチャンスがあれば調査もしてみたいなというふうに思います。

○日高委員 お願いします。

○井上委員 確かに移住されている方って結構いるんです。サーフィンが主で、サイドビジネスでやっておられるのもいろんなことをやっておられて、もう定着してこっちに住んでおられる方も随分いらっしゃいますよね。サーフィンの場合は、やり過ぎてはいけない施設整備というのもあると思うんです。自然を壊すようなことは絶対だめなので、そういうことも含めて、県が考えているサーフィンを観光目的にすることもそうだし、これからの人口をふやしていくということについても、県が考えているほどに、市町村とはちょっと温度差があるのかなという思いがしてならないわけです。だから、もっとちょっと丁寧にサーフィンのお客様の受け入れについては、市町村との連携というのを十分とっていただきたいなと思うんですけども、そのあたりはどうなんですか。

○福嶋観光推進課長 まさに市町村に、まずは主体的にそういう施設整備などもやっていただかないということもありますし、県のほうでも施設整備をする際には、それを助成する制度もありますし、そういった、今回、特にオリンピックに手を挙げたということもありますので、市町村と話をしていけないといけないというふうに思います。

きのう、遠藤大臣がお見えになって、知事のほうから開催地としての要望をしたんですけども、その席には、沿岸部の首長さん方にも同席していただいて、一緒に要望を行っていただきました。そういったこともきっかけにしながら、市町村と話を進めていきたいというふうに思います。

○井上委員 宮崎の波は、日本でとかという範囲じゃなく、世界的にもすごくすばらしいという波だと言われているので、そこも含めてやっぱりアピールする必要というのがあると思うので、そういうことも実際頭に入れておいていただきたいと思うんです。以前、議会でも取り上げさせていただきましたが、波情報、波が今どんな状態にあるかという情報をしっかりと伝えていくということは大切なのではないかなと思うんです。

私たちは、実際、沿岸部に住んで、波なんか見てたけれども、あそこで何かやろうなんていう気持ちは全くなかったけれども、県外の方たちは、本当に違う意味で宮崎を見ていただいているという点でいえば、これはもうすごい視点が違ってくると思うんです。ですから、この調査でもわかるように、県外客のお客様がおとさせていただける外貨というのは、大変大きいものがあるので、そういう点でいえば、もっと丁寧な対策のとり方というか、多分もう何かつくればいいというものではないと思うんです、トイレも何もかも、着がえる場所も。車中泊でなく、近くのところでどうやって上手に泊まっていたかということも含めて、もうちょっと考えていく必要というのがあるんじゃないでしょうか。

それと、民泊のあり方も、昔は何か行って、そこでお魚食べて、それが楽しいという感じだけでありましたけれども、それだけではないものを見つけていく力を、私たちも持たないといけないので、もう少しこのサーファーの皆さんのところに、アクセスしていく力みたいなのが必要なのではないかなというふうに思うんです。ですから、その方たちのお力もかりて、2020年に向けての、私たちの戦術を立てていくことが

必要なのではないかなというふうに思うんですけれども、そのあたりいかがなんでしょうか。

○福嶋観光推進課長 まさに、オリンピック開催を実現するためには、サーフィンをやっている方々が、やっぱり宮崎でやりたいと言っただけが一番なんじゃないかなと思っております。ですので、まずは、そういった方々の声を聞いて、一緒に活動していくってということが大事なんだろうというふうに、今思っております。

○井上委員 結局、やっぱり波情報も含めて、あの人たちから流れていく部分のほうが多くなると思うんです。ですから、みんな宮崎にまいよという流れをつくっていただけるのは、その人たちなのかなというふうに思いますので、やっぱりその方たちとのアクセス、コンタクトがとれるかどうかというのをしっかりやっただけならと思っております。

ですから、そういうときに、先ほどちょっとあった、観光における人財の育成というときに、どういう人財を育成していくのかということとは、とても大事なことはないのかなと思うんです。

山下委員のほうからも、どういったものを食べているのかという話が出ましたが、本当に何を食べているのか、何を食べていただくことが楽しいのかということなども、やっぱりそういうものを仕上げていかないと、なかなかわかっていただけない部分があるのではないかなと思うんです。お土産の部分もそうですけれども、先日、鹿児島でうかがったEGLの袁社長のお話だと、買って帰りたいものがあるのに買えないということはずごく残念だということをおっしゃっておられましたが、やっぱり買って帰りたいものとは何なのかということをきちんと把握しておく必要というのがあるのではないかな

なというふうに思いますから、そこもやっていただきたいと思うんですけれども、いかがですか。

○福岡観光推進課長 今回、調査いろいろやってきまして、やっぱりその先、何を食べておいしかったのか、何を買ったかったのか、またその先にやっぱり知る必要があるなというふうに感じました。また、こういった調査を次のステップでやっていきたいというふうに考えております。

○井上委員 それと、このW i — F i の関係なんですけれども、これも、私も議会で取り上げさせていただいて整備をしていくというお話でこういう状況になっているんですけれども、やっぱりまだまだ本当に本気で外国人のお客様を迎えるのには十分でない部分というのが多いと思うんですが、環境の整備に何が足りないのかということは、どんなふうに考えておられるのか。単に、設置して、W i — F i の環境の整備が、旅館やほかのところに浸透しないということなんですか、これどういうことなんですか。なぜ環境整備というのがあまり進んでないんですか。

○福岡観光推進課長 進んでないというよりも、今、日本全体で、観光庁の調査で、外国人の満足度で、あると便利な情報で一番高いのが無料W i — F i だということでもあります。本県は、そういう意味では若干進んでいるのかなと思うんですけれども、進んでいるといいますのが、例えば、県のレベルでサーバーを設置して、市町村とか事業者さんも共有できるようなものをつくったということに関しては進んでいると。これができることで、より民間での導入も加速化されるんじゃないかなというふうに期待をしているんですけれども、去年はホテルに助成をして、インバウンドを受け入れたいというホテ

ルは、客室での無料W i — F i が提供できるようになっております。今度は、観光地だろうということで、サーバーを設置して、県の主な、外国人が多く見える観光地には、こういったW i — F i を設けるようにしたと。今からは、今度は市町村の番ですよということで、市町村がそれぞれ進めていただくと、また、商店街とか、あるいは駅とか、そういったところも随時ふやしていく方向でということ、今はそういう状況にあるということなんです。

○井上委員 本県は九州内でも進んでいるというふうに理解していいということですか。

○福岡観光推進課長 主観的な意見かもしれませんが、今、N T T ドコモさんのほうに、サーバーの設置から、またその普及をお願いしております。今、県が関与しているのはこの部分でありますけれども、統一の認証アプリが使えるようなところを、N T T さんが今可能性があるとやっているところが700カ所あります。それは、コンビニだったり、いろんな飲食店だったりするんですけれども、今、既にW i — F i が入っているところを、同じアプリで統一認証できるようにするのは、最大可能性として700カ所あるという状況です。

○井上委員 じゃあこれはしっかりときちんと進めていっていただきたいと思います。私はちょっと勘違いしてました。宮崎ってあんまりまだ先に進んでないみたいな印象があったんですけれども。

○武田観光経済交流局長 今、課長のほうから話があった部分については、いわゆるW i — F i のほかの関係とか、いろんなシステムの中身とか、そういう取り組みについては他県よりも進んでいるということなんです。どれだけエリアにW i — F i が設置されているかという、

まだ十分な部分はないと思いますけれども、そういったところはやはり積極的に取り組んでいかなければいけないのかなというふうに思っております。

○永山商工観光労働部長 他県においては、民間ベースでW i — F i 環境を整えていっているというところはたくさんありますので、ホテル等も含めて、そういう意味では、宮崎県のW i — F i 環境が進んでいるというわけではありません。

ただ、県の共通認証システムで1回そのシステムに入ってしまうと、どの観光地でも使えるという新しい取り組みを県としてやっているということですから、最終的にはとってもしやすい環境が、市町村がちゃんと協力してうまくやっていけばできるのではないかなと思っております。今いい状態にあるということではありませんが、これからいい状態はつくれるのではないかなというふうに思っています。

○井上委員 では期待しておきますので、よろしくお祈りしたいと思います。

実は、東九州自動車道が繋がって、大変本当に効果が出てきたというふうに私も思います。人の入りがよくなってきている。じゃあどう回していくかということが、どんなふうにしていくのかということが大変重要で、1カ所にとどめないとか、すぐ帰さないとかということが大変重要なのではないかなというふうに思っています。

ちょっとこの外国クルーズ船のことなんです。県内の主な訪問地、これは固定されているんですか。大体向こうからのお申し入れがこうということですか。

○福岡観光推進課長 上陸してどこを回るかということについては、その形態によりますけ

れども、どんな国内での受け、ランド社といいますけれども、受けがどういうルートがつくるかということが一つあります。幾つもの、何十ものルートがあつて、それをお客さんが選んで、実際にツアーが成立するというオプションツアーだと聞いていますので、固定ということではなく、いろんなパターンがあつて、その中からお客さんが選ばれたものが実際には実施されていると。ランド社が1社とかであれば、そこに働きかけをして、こういうところをルートに入れてほしいということも不可能ではないと思うんですけれども、実際には、それが10社ぐらいあつたり、それが、日本の会社じゃなくて、上海の会社であつたりとかいうことも多々ありますので、ここに回してほしいという話を持っていくのは、なかなか難しい話であるというところで

○井上委員 そこがなかなか大変なところなんですね。私も行っていただきたいと思つているところはまだまだたくさんあるし、コースとしては幾つかつくれるのではないかなというふうに思っています。

それと、もう一つは、このツアーに参加しなかった皆さんは、どのくらいいらっしゃるのかというのがちょっと知りたいところなんです。その方らは、船から全くおらずに船の中にいらっしゃるのか、それとも、おりにいただいているけれども、行く先がないと思つておられるのか、その辺のところの分析はどうなっているんでしょうか。

○福岡観光推進課長 一応どのくらいのお客さんがツアーに参加されて残られたかというのは、数字としてはあるんですけども、例えば、8月10日のスカイシーですと、乗客が1,479人に対して、バスツアーに参加したのは1,274、次に、

クァンタムのほうが、4,843人の乗客に対して、ツアーに参加したのが4,484、それと、ボイジャーが乗客3,445に対して、ツアーの参加が3,311と。ツアーに参加されないお客さんについては、シャトルバスを港のほうに配置しておりまして、それに乗って油津商店街に出掛ける、あるいはタクシーも待機しておりますので、タクシーに乗って好きなところに行かれると。結構串間のほうに行かれたり、宮崎市内まで行かれたお客さんもおられたというふうに聞いております。シャトルバスは油津商店街のほうに案内しますので、そちらでおりて、散策をされて、御飯を食べたり、物を買ったりということだということです。

○井上委員 このバスに乗られなかった人に対する対策もしっかりやっていただけるといいなと思っています。日南のまちの中もまた変わりがつあるんで、油津もしっかりと見ていただいて、楽しんでいただけるように、そのときに、何を提供したらいいのか、どのように動いていただいたらいいのかというのをちょっと考えなくてはならない。この方たちが来なくなると困る、来ていただきたい。来ていただくためには、やっぱりツアーで回らなかったとしても、こういう楽しいことが起こるよということがわかっていたらいいのかなというふうに思いますので、せめて、その方たちのためにも何か行動を起こしていただけたらと思っています。要望ですから回答はいいです。ありがとうございました。

○徳重委員 お尋ねしたいと思いますが、先日、人吉市で行われました観光振興議員連盟の会議に、武田局長がいられてお話をされたところですが、そこで感じたことでちょっとお尋ねしてみたいと思います。

インバウンド新時代というようなことが言わ

れておりまして、熊本県にも宮崎にも外国からの直行便が来る時代です。そういったことで、外国からおいでになる方は、観光客ばかりじゃないと思うんですが、どういう形で、観光なのか、あるいはビジネスなのか。おいでになった方はどういう形で動かれるのかなと思って、それがわかっておればひとつ教えてください。日本に着かれてからの行動、宮崎に着かれてからの行動、もちろん観光が中心だろうと思うんですけども、観光バスに乗られて回られるのか、そういった動きはどのような形でされているのか。

○福嶋観光推進課長 まだ、国によって若干形態が違うんですけども、例えば、韓国だと個人のお客様が多くなると。台湾とかは、まだ団体客が多いので、香港もそうなんですけれども、香港はもうEGLツアーがほとんどとっていますので、バスでやっぱり観光地を回るのが通常のパターンになっております。

○徳重委員 実は、当日、袁文英社長のお話を聞かせていただきました。宮崎にもおいでになったようですが、そこで強く言われたことを、私も興味があったんですが、これからの観光客というのは、海外の人たちは、バスに乗る大きなツアーじゃなくて、5人、10人、あるいは四、五人、家族でというのが非常に多くなってくるんだと。そして、もう団体より、レンタカーを使って観光地を回りたいと。もちろん日本の状況を知って、宮崎の状況を知って、熊本の状況を知って来られるわけですから、あそこに行ってみたい、ここに行ってみたいということで、これからの観光客そのものはもうレンタカーだと、これが整備されることが最も望むところだというようなお話をされたと、非常に、私、興味深かったんです。そこで、レンタカーはありますよね。あるんですが、外国語がナビの中に

取り込まれていないとどこに行っていかわからないわけです。日本語全部わかる人はいないわけですから。そうなりますと、整備されているのかどうかということなんです。それをやってほしいというお話をされたら、私は理解をしているんですが、宮崎でレンタカーのナビに韓国語、あるいは中国語、台湾語で中国語でしょうが、そういったものがあるのかどうかちょっと教えてください。

○福岡観光推進課長 ナビの多言語化についてはちょっと把握をしてないんですけれども、確かにレンタカーは今後ふえてくるというふうには考えております。

この前、袁社長は、例えば、乗り捨て、それが結構料金が高いということで、何とかならないかというお話もあったかと思います。そのあたりについては、まだ、ちょっと民間のお話でありまして、なかなか行政として手を出せない部分あるんですけれども、まずは、公共交通機関からということで、きょう8ページで紹介させていただいた二次交通対策、これを県としては今やっているという状況です。

ただ、レンタカーが今後主力になってくるであろうということは十分予想されますので、何かできないかなというところを今考えているという状況です。

○徳重委員 当日、私は懇親会までずっと出席していたんです。熊本県の蒲島知事は、最初から最後までいらっしゃいました。たまたま私の脇においでになったときに知事が、熊本の県庁の局長さんでしたか、課長さんがさきにいらっしゃって、局長を呼べと言われて、私のそばでお話しされたんです。

何と言われたかという、きょう、袁さんのお話の中で、これから香港から熊本においでに

なる方の対応にレンタカーは絶対必要だと。だから、これを、早急に関係者を集めて対応しろと。私の目の前でそういうお話をされました。さすがだなと思いました。即行動をされて、関係者はもちろん民間もひっくるめて、行政もひっくるめて、その対応は粗相のないようにやれという指示をされたのにびっくりしました。

これから、宮崎も香港との関係も出てきます。韓国、台湾も出てくるでしょう。これから主流になっていくということを考えるときに、これは、早急に対応しなければいけないことではないかなと思いましたが、どうでしょうか。武田局長。

○武田観光経済交流局長 私も、当日、熊本県知事から鹿児島、宮崎、一緒になって協力してほしいという要請は受けましたので、私どもも、やはり、今、課長が言いましたように、特に、公共交通機関が十分発達していない本県にとっては、やっぱりレンタカーというのは非常に有効なツールだと思いますし、また、今、徳重委員が言われましたように、外国人が使って利用できないと、外国表示とかそういったものがないと、やはり利用できない部分がありますので、不便なところもありますので、そういったところも一旦調査をしたり、もしくは把握をしながら、どういった方法でやれるのかということは早急に対応していきたいと思えます。

ただ、課長が言いましたように、やはり、レンタカーの部分については、民間との競合という部分も課題がございますので、そういったところは、ちょっと業界とも十分意思疎通を図りながら、連携とっていかないといけないのかなというふうに思っておりますので、御提案がありましたので、そういったところは真摯に受けとめて対応していきたいと思えます。

○徳重委員 数はそんなに最初は多くないかもしれませんが、宮崎県に行ったら、レンタカーもあってどこにでも行けるよ、いいぞと、口伝えに広まることによってまたリピーターがふえてくるんだと、私はこう考えておりますので、小さいことかもしれませんが、やはり大事なことだところう思っていますので、ぜひひとつ前向きに取り組んでいただきたい。

○押川委員長 よろしいですか。

○徳重委員 はい、いいです。

○新見委員 11月上旬に、この委員会で県外調査に行ったときに、兼六園に行ったんです。そこに、観光案内板があったんですけども、その中に英語とハングル、中国語が2つあったものですから、この中国語はどういう違いだろうかなど、私もちょっと中国には疎いもんですから、広東語とか北京語とか上海語の違いなのかなと思ったんですけども、きょうの9ページの資料を見て、あれは、簡体字と繁体字だったんだというふうに理解したところでございますが、確かに今、クルーズ船等の就航によって、中国人に目が向いてて、この9ページ等の対応をされていると思うんですが、私、この2月議会で、東南アジアの観光客対策ということで、多言語対応ということで、ベトナム語とかタイ語とか、そういった対応をお願いしたところ、今年度中に、旬ナビの東南アジアの言語を対応するというのを答弁でいただいたんですが、ちょっとごめんなさい、きょうの説明とは関係ないですけども、その状況はどうなっているのかまずお尋ねしたいと思います。

○福嶋観光推進課長 今、議員おっしゃったように、今、旬ナビのほうで7カ国語までふやそうという準備をしているところです。年度内にはそれがアップできるようになるというふうに、

そういうスケジュールで進んでおります。

○新見委員 東南アジア系ですね。

それでは、今、例えば、観光案内板はQRコード、今いろんなコードがありますよね。最近では、あるアプリを入れると、スマホとかタブレットで、ポスターをスキャンすると、そこからまた動画が出るような仕組みもあって、この世界は本当に日進月歩、もう日々変わっているんじゃないかというぐらい動きが激しいんですが、そういった最新のこういったIT関係の状況を常に仕入れないといけないと思うんですが、そこ辺の情報収集は、例えば、観光推進課で単独でやられているのか、情報政策課等々も連携しながらやっていたらいいのか、その現在の取り組み状況を教えてください。

○福嶋観光推進課長 基本的には観光推進課なりコンベンション協会なりでアンテナを張ってということなんでしょうけれども、やはり、何かキャッチしたときに聞くというのは、もう庁内で情報政策課に聞けばわかるんじゃないとか、そういったことは多々ありますので、そういった形で情報収集は積極的にやっていきたいというふうに思っています。

○井手総合政策課長 今、新見委員がおっしゃった技術、ARと言われる技術だと思います。これにつきましては、以前にも議会でもお話があったことがあり、広報戦略室のほうでいろいろな広報の1ツールとして使えないかという検討をしております。現に、今、発売されている県民手帳等には、もうその技術を応用して、県民手帳にスマホをかざしていただくと、宮崎犬が躍るようなものも入れております。広報のツールとして、いかにうまく使っていくかという研究は、広報戦略室を通じて総合政策部のほうでもっております。

また、多言語化に関しても同じ発想でありまして、総合政策課としては、オリンピック・パラリンピックおもてなしプロジェクトという中で、県全体の多言語化を進めていこうということで考えております。

ちょっとお話のありましたカーナビにつきましては、現時点での新しい機種のカナナビは、ほとんど英語対応は、設定によって英語対応できるようになっておりますので、レンタカー会社において、借りるときに英語であれば、設定をすれば新しい機種は対応できるというふうに聞いております。ただ、アジア系の言語につきましては、まだまだ機种的には難しいところがございますので、その辺については、今後の機種の変更等、もしくはインターネットを使ったナビゲーションシステムの導入等、いろいろな研究が必要だろうと思っております。

この辺も含めて、おもてなしプロジェクトでいろんな議論をしてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○新見委員 本当に多言語対応ができるいろんなコードも常に開発されてますので、しっかりアンテナ張っていただきながら、宮崎県観光の推進に活用できるものはどんどん取り入れていただければというふうに思います。

○島田委員 2点お願いしたいんですけども、まさに今チャンスだろうと思ってるんですが、現場の声として受けとめてもらいたいと思うんですが、日南にクルーズ船が来て、一同に飴肥城に来るんですが、店に入って、触るなど書いてあるですけども、来られる人たちは疑うんです。品物がこれと同じなのかというのを疑うもんですから、あけてしまうんです。あけたらいけませんよと言っても、なかなかそういうの

が一同に10人も20人も来るわけだからわからないし、そして、試食用のマンゴーなども、このマンゴーは品物の味と一緒になのかと疑うんです。だから、やっぱり、看板で表示するというものを入りに置くべきじゃないかなと思うんです。我々も置いているんですけども、疑って入って、みんなでごたごたした中でそういうふうになるもんですから。しかし、これだけの人が一同に来る効果を考えると、日本は本当にクルーズ船誘致に力を入れないとだめだなということが一点。

あと、黒川温泉の女将さんたちが、一同になって商工会議所と組んで勉強会をして、片言の中国語、韓国語をマスターして、受け入れをするようにしているんだそうです。また、福岡の食堂には、従業員として、中国人、韓国人のスタッフが入っているんだそうです。だから、やっぱりこれからアジアから観光客が増える中で、やっぱり人財育成が必要で、ある程度地域地域にそういうスタッフがいないとだめじゃないかなと思うんです。

それと、看板などで表示するなど、言わなくても文章で知らしめていくというようなことになってくると、かなり我々のおもてなしというのも準備できるんじゃないかなと思うんです。今までは準備期間も無かったため、一度に1,000人も2,000人も上がってきて、バスで40人来て、一同にその店に入られてパニックになったんです。ようやく大体中国人ってあんなもんかかってというのがわかったけれども、やっぱり対応できないです。だから、スタッフをふやさなければいけないけれども、ふやしたら、お客さんが来ない時期には、人件費がかかり経営が成り立たなくなるということもあるもんですから、やっぱりこれは行政と一緒に勉強会をするべ

きじゃないかなと思っているんですけども、今後、講師を派遣するなどして、地域地域で人材育成ができないものかなと思っているんですけど、いかがですか。

○福嶋観光推進課長 今回クルーズ船は、夏場に油津港に一挙に入ったということで、対応が本当に大変だったんじゃないかなと思います。地元の方も、やりながら、台湾の方が来たときと、また、中国本土の方が来たときと、また全然対応が違うということで、戸惑われたんじゃないかなと思います。

実際には、例えば、飲食店であれば、指さしのメニューをつくっていくとか、物販しているところであれば、表示を簡体字と繁体字で、お客さんによって入れかえて使うとか、そういったことがやっぱり必要なんだろうと思います。

日南のほうでは、10市町で協議会をつくっておりますし、その中で商工会議所とかと一緒にしながら、地元の方々を集めて、そういった勉強会をやったりということも始めたというふうに聞いております。

もちろん必要があれば、そういった講師も県のほうで紹介したいと思いますし、きょう、委員会資料の中でも、最後に、10ページの下のほうで、インバウンドの講演会をやったということをお報告いたしましたけれども、このインバウンド・ソリューションズの中村さんも、ぜひまた次の講演なりを、勉強会なりをというお話がありまして、日南のほうにも御紹介をしているという状況ですので、そういった機会を通じながら、官民一緒になって、そういった対応を進めていけたらいいのかなというふうに思っております。

○島田委員 やはり、おもてなしというのを掲げていながら、外国人の文化の違いというのが

あるため、戸惑うわけです。来た方は、日本の着物のはんてん、あれを着て携帯で撮るんです。着たらいけないのに着て撮るんです。撮って、中国にいる友達に送って、いやこれがいいよとか、買ってくれっていうもんだから、そういうふうになるんです。いや、それではだめだとかいうようになると、3着も4着も着て撮ってしまうということもある。だから、その対応というのも非常に難しいでしょうけれども、観光産業に繋げるためにも必要だと。地元では努力をしているんですけども、やっぱりそこに指導者が来て、また、黒川温泉みたいに商工会議所などと組んでおもてなしの方法をやるような体制を作らないと、100%のおもてなしというのはできないだろうと思います。それができて、リピーターというのが出てくるから、福岡に入ったら、必ず油津港にも寄ってくれよという回遊ができるんじゃないかなと思うんですけども、よろしくお願ひしたいと思います。

○押川委員長 要望でよろしいですか。ほかにございませんか。

○田口副委員長 LCCのことでちょっとお聞きします。先週末の朝日新聞にも記事が出ておりましたが、非常に搭乗率がいいようですけれども、これはほとんど個人客なんですか、それとも団体もあるんでしょうか。

○野口総合交通課長 データとして持っているわけではございませんけれども、会社のほうからお聞きしますと、ピーチにつきましては個人客が多いというふうに聞いております。特に若者ですとか、それから、大阪ですので、今までなかなか機会が少なかったんでしょうけれども、帰省客、それから、先ほどから話が出てますサーフィン、そういったお客さんも見れるというふうに聞いております。

○田口副委員長 今、夜の1本往復だけですよね。例えば、朝の便がもう一本あれば、朝行って、そのまま夜の便で帰ってこれると、日帰りもできるわけですが、そういう取り組みは、パイロット不足とかいろいろな状況はあるのかもしれませんが、今のところ、増便とかいうようなことはどのような状況なのでしょうか。

○野口総合交通課長 ピーチのほうからは、今回の時間繰りにつきましては、機材繰りですとか、それから、関西空港のスポット、そういった空きぐあいからこういった時間帯になったというふうに聞いております。就航に際しまして、知事も直接お願いをしておりますけれども、ピーチのほうからは、この宮崎の今の利用者数がふえていけば、当然増便も考えたいという言葉をいただいていますので、我々も利用者をふやす取り組みもあわせながら、そういった要望活動を続けてまいりたいというふうに考えております。

○田口副委員長 ピーチの全国の就航の中で85.7%というのは、かなりいいほうなんですか、平均的なものなのでしょうか。ちょっとその辺がもしわかれば。

○野口総合交通課長 ちょっとほかの空港のデータ持ち合わせておりませんが、ピーチのほうからは、宮崎空港での目標値、これが75から80あれば、非常に御の字だといいますか、そういった目標値を聞いておりましたので、85というのは、非常に会社にとってもいい数字であるというふうに認識をしております。

○田口副委員長 ということであれば、非常に目標値に対し、5から10%以上多いということですから、増便に向けてもぜひまた働きかけをしていただけたらと思っております。

それから、観光の人財育成のところでは

とお聞きします。口では、おもてなしというのは簡単なんですが、今どこの県でもおもてなしというのを、いろんなことでやっております。例えば、中国でも国内の方でも、1つはマニュアル化もいいのかもしれませんが、例えば、そこを一つ踏み込んだ対応が、非常におもてなしで向こうの心に映るんだと思います。

例えば、知事がこの間、エンジン01の話をしました。講師陣が来たときに、ホテルの枕元に似顔絵を描いたものが置いてあったとか、これは、ちょっと非常にレアなケースとしても、個人個人に、あるいは老若男女に合わせた対応というのは、本当のおもてなしなのかもしれませんが、その中での人財育成というのは、その辺はどのようにお考えになっているのか、ちょっとお聞きします。非常に難しいんですけども。

○福嶋観光推進課長 人財育成に関しては、このプロジェクトチームは一例ということでやっていかないといけないんですけども、おもてなしとなりますと、まずは、県民全体の機運醸成から始まり、ホテルの事業者、交通事業者さんへのいろんな業務としての研修ということまで非常に幅が広いなというふうには思っております。

実際にホテルですとか、飲食店やバス、タクシー、そういったところでは、一生懸命おもてなしのための取り組みをしていただいているとは思いますが、また、そういう機会を設けられたら、県のほうでもそういう話はしていないといけないのかなというふうには改めて思っているところです。

○田口副委員長 非常に難しいと思っておりますけれども、そういう意味では、県を挙げてということは、私たちも、外国人が来たら、おもてなしの心を持って対応をするということですね。あ

と、外国人が日本に来るとびっくりするのが、日本人が非常に手をよく振ってくれることとか、あと、この間、アメリカの方が東京に来たときに、日本人はこんなシャイなのに、何か友好的だ、フランクだというのはなかなか気づかなかったという話が出ていましたんで、そういう意味では、僕らもおもてなしということを考えて対応をしなくちゃいけないということですね。わかりました。

○井上委員 今回一般質問させていただいたんですが、その中で、JRの宮崎駅のSUGOCAの改札機をつけていただいたということは、本当感謝を申し上げているんですけども、他県に行くと、やっぱり駅というのは、大変中心になっているというのは事実だと思うんです。私たちもJRおおいたシティを見させていただいたんですが、うらやましいの一言だったわけです。東急ハンズさんなども入っていて、すごくいいなと思いました。

私たちのところの宮崎駅は、アメリカの優れたデザイナーの方がつくられた駅なのですが、そういう宣伝が行き届いていないので、工事はいつ終わるの、工事中なのと言われる人もいたり、なかなかちょっと難しいなと思いつつながら、逆にもっとすごく宣伝しないといけないのかなと思ったりもしているところなんですけれども。やっぱり宮崎駅は玄関口で、空港までの直の列車も持っているんで、もう少し活性化させていく力みたいなのを持ったほう良いんじゃないかなと思っています。それで、いろいろ考えてみると、宮崎は列車を使う人が少なく、乗降客が少ないため、そういう意味でいうと、JRさんは、もうしっかりとした経営戦略をお持ちなので、お金にならないところにはあんまりお金かけてこないのかなというふうに思わざるを得な

いんですけれども、今度、宮崎市は、今までとちょっと違う形で、駅に向かって放射状に道路がきちんとできていくわけです。だから、そういうことを考えると、大分のJRおおいたシティが、駅舎の中を突き抜けるようになってから、人との交流と活性化が生まれたというふうにおっしゃってましたが、うちはもう最初から生き生きできて、本当は活性化できてないといけません。だから、私どもも宮崎市に言わないといけないと思ってますが、JRの東口と、西口のところを含めて、もう少し宮崎市さんと一体となって、JR宮崎駅をちょっと活性化させるような取り組みをやってはいただけないのかと思います。私は福岡行くときは必ずB&Sを使っていますが、あのよう、もっと乗ったり、活用して、駅をもう少し盛り上げていくというようなことはできないのか、それは、私だけの妄想なのか、ちょっと部長をそういうことをお聞きしたいと思っているんですけども。

○永山商工観光労働部長 委員がおっしゃった大分駅、私見てきましたし、その前、博多駅見ても、やっぱりしっかりとした整備が行われること、そこで相当な集客効果があると。それは、県内だけではなくて、県外からも相当な人が来るということで、やっぱり駅が持っている力というのは、今大きくなっているんだろうなというふうに思ってます。また、宮崎でいっても、これはJRではありませんけれども、KITENビルができたことで、相当程度あそこに若い人が来るようになってますし、その効果もあって、IT関係の企業が高千穂通りに相当程度集約されてきていると。さまざまな効果があるんだろうなというふうに思ってます。

やっぱりまちづくりを考える上で、駅というのは、宮崎の場合だったら、宮崎駅の存在って

非常に大きいですから、それをどうしてもらえるのか、JRがどう考えるかというのはとても大切な観点だと思っておりますし、その路線の維持等々について考えても、JR側が適切な投資をして、その改修を図ってもらうというふうな観点からも、JRの投資を呼び込むことはとても大切なことだというふうに思っております。

宮崎市ともさまざまな意見交換の場面もありますし、JRとも意見交換の場面もありますから、さまざまな話はしていきたいというふうには思っています。

○井上委員 私が11月末に博多に行ったときは、イルミネーションやビアガーデンと、それから、いろんな意味での小さな、おもちゃみたいな出店をたくさん出しておられて、それは博多ならではのところなんですけれども、人をたくさん集めておられて、そういう意味では、すごい商店街としても、博多そのものが盛り上がっているというのが実感できました。JRおおいたシティも、商店街の方と連携して、人をくるくる回すということについて一緒になってやっておられて、商店街の皆さんのところに行きましたら、人の動きが違ってきているということを言っておられました。JRおおいたシティの前で物を売らせていただいたら、そのまま商店街にもまた続けて行っていただくような、そういう取り組みというのをやっておられて、だから、人の動きが各段に違ってきて、今まで閑古鳥が鳴いていたところが、随分変わりましたということをおっしゃっておりました。

私は、橘通りのイルミネーションをしちゃいけないと言っているわけではないんです。しちゃいけないと言っているわけではないんですけれども、宮崎市があれば何千万も金かけてイルミネーションしているわけなんですけれども、あれを1回でいいか

ら、宮崎駅の西口、東口で一大イベントをやっていたらと、何かちょっと違うのかなと。

駅の100周年のときには、それなりの動きがあって、それなりのイベントというのが組めたんです。だから、宮崎県内にある神楽を全部持つてくるとか、おもしろいことをやってみて、私たちは宮崎駅を中心に、駅を大切に思っているんだということを、何かJRにわかって頂けるような催しを含めて取り組みができないのかというのが、本当は議場で言いたかったことなんですけれども、あんまり言い過ぎると逆効果になるといけないと思って言わなかったわけなんですけれども。そういった、JRにアピールするためにも、何か取り組みをやっていただけないのかなと思っておりますが。

○永山商工観光労働部長 JRは、宮崎県には相当程度関心は持ってくれています。今回、SUGOCAカードについても、社内的に見れば基準に合わない利用客数しかいないんですけれども、しっかりと宮崎市管内ではありますけれども、導入をしていただきました。関心は持っただけだと思っています。

それから、大分の例を言われましたけれども、やっぱりここはおっしゃったように、統一のコンセプトで、県と市、それから、JRがそれぞれの役割を果たして、そして、人を回していくというふうな取り組みをされた。まちづくりとして、非常に大きないい例であろうというふうに思っています。宮崎として、どういう取り組みができるのか、言われたように、JRの宮崎に対する投資の関心をどうつないでいくのかという観点など、さまざまな工夫はしていきたいというふうに思っています。

○井上委員 よろしくお願ひします。

○押川委員長 ありがとうございます。ほか

にはもうございませんか。

○山下商工政策課長 済みません。先ほどの外山委員の御質問の補足をさせていただきたいと思えます。免税店についてということで、誰でもなれるのかという御質問をいただいたところで、基本的にはもちろん申請をすればということではあるんですけれども、承認を受けるための要件といたしましては、消費税の課税事業者であることであつたりとか、国税の滞納がないことであつたりとか、あと免税店手続カウンターに必要な人員を配置することなど、そういった条件を満たせば、免税店になることができるということになります。

また、店舗については、先ほど上限があるというお話をさせていただきましたが、基本的には、1店舗当たり10万円、1事業者当たり20万円というのを、先ほどの県の補助支援のほうについてはさせていただいておりますので、そういった意味では、大規模店舗であろうが、小規模店舗であろうが、そういった意味での差は余り生じないのかなというふうに考えております。

○押川委員長 外山委員、いいですか。

○外山委員 はい。

○押川委員長 それでは、ないようですので、これで終わりたいと思えます。執行部の皆様、御苦労さまでございました。

暫時休憩いたします。

午前11時44分休憩

午前11時46分再開

○押川委員長 それでは、委員会を再開いたします。

協議事項（1）の提言についてであります。

県外調査が終了し、他県の状況等も調査ができましたので、これからは、年度末の報告書の

作成に向けて、県当局や国に対し、どのような提言や働きかけができるかを整理していかなければなりません。

今までの委員会活動の経過につきましては、事前に皆様に配付しております。今までの活動の経過を踏まえた上で、報告書に盛り込む提言などにつきまして、御意見をいただきたいと思います。

まずは、物流を含めた総合交通対策につきまして、御意見をいただきたいと思います。これまでの委員会では、観光振興対策とも関連しますが、東九州自動車道や九州中央自動車道の未開通区間の早期整備、四国向けなどの地方国内航空路線の整備、東九州新幹線の整備方針などについての意見が出ているところであります。特に、ハード整備の部分につきましては、国への意見書提出の必要性も含め、報告書に盛り込む提言などにつきまして御意見はありませんでしょうか。

○緒嶋委員 新幹線は何十年後になるかわからないけれども、やっぱり現実的な視点から考えれば、日豊線の複線化とか高速化とかいう問題を取り上げること必要だと思う。これは流通の問題の中でも、貨物輸送にしても、新幹線ができたからって、新幹線で輸送というのは考えられないわけだから、宮崎が大消費地に遠いということ考えた場合には、やっぱり日豊線の現高速化、複線化を進めるとというのが現実的であり、やはり現時点では政策的に必要ではないかなど。その夢を持って新幹線をとすることは否定はしないけれども、実際は、本当に目の前に実現できる問題じゃないわけです。日本で鉄道の複線がないのは宮崎だけで、全国どこにでも、四国でもあるわけですから、それを考えた場合、やはり日豊線の複線化、整備というのを、宮崎

県のおくれを我々は声を大にして言わない限りは、均衡ある発展とか、地方創生とかいうのも後手後手に回るのは間違いないと私は思うので、その辺りをやっぱり報告書の中では、将来の夢と現実的な政策についての日豊線の高速化、流通という面も含め、観光も含めてやっぱり入れてほしいなというふうに思っております。

○日高委員 それと、九州中央自動車道のストック効果は高いので、入れてもらいたい。具体的には、計画段階評価を早期に行い、整備計画にもっていくということを入れ込んでもらうと一番良いかなと思います。

○井本委員 複線化していないのは日豊本線だけだという話だから、JRに対する国の助成は非常に低いわけです。1割ぐらいしかない。だから、これをまず変えないといけない。ある意味では、特区というぐらいの感じでやらないと、絶対これは前に進みません。もう我々も何十年も、はっきりいって県議会議員になって20年間いってもずっとびくともしないままですもんね。だから、本当、ある意味、もう特区化してやってくれというふうなくらいのことを言わないと、絶対動かないと私は思います。

それと、あと東九州自動車道ができてきてますけれども、これの4車線化も必要ですよ。たくさん利用しないとしょうがないという話もあるんだけど、2車線になると流れが止まりますね。

○島田委員 中央自動車道というのが入っていれば、東九州自動車道の県南区間は入れたらいいのですか。（「当然入ります」と呼ぶ者あり）

○井上委員 物流のためには、中央道は宮崎県にとってものすごく大事だと思う。

○外山委員 おっしゃったように、高速化もそ

うだし、道路もですよ。宮崎は、つくったところが駅も中途半端、何かお粗末。できたけれども、できた後に何かそごがあるんですね。道路もせっかくできたと思ったら対面通行だったりとか。だから、もうちょっと大胆な要望とか強く要望しないと、いろいろなものができたところで、後で結局使い勝手が悪かったり、他県に劣ったりしているところが見受けられると思うんです。駅ビルもそう、あるいはいろいろなものが。

○日高委員 インバウンドをふやすということであれば、国際定期便の増便も必要かなと思います。議会でも質問がありましたよね。

○押川委員長 はい、わかりました。ほかにございませんか。

ただいまいろんな御意見いただいたところでありまして、皆さん方に御相談をしたいと思うんですが、意見書にする部分があるのか、あるいは報告書に盛り込むものにするかということで、どちらにするかということをお意見をいただくとありがたいと思いますけれども。

○緒嶋委員 それは当然報告書に入れるけれども、それと同時に、意見書は意見書で出せばよいんじゃないですか。もちろん報告書には入れておいたほうが良いと思ういます。そして、やはり、今言ったような、やっぱり社会資本の整備がおくれている分については、また特別委員会での意見として、国にこれは言わなくてはいけないわけですから。報告書はあくまでも議会内の報告であるから、両方兼ねてうまくやったほうが良いんじゃないかな。

○押川委員長 報告書挿入並びに意見書を特別委員会を出すということで整理をさせていただきますと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○押川委員長 ありがとうございます。

次に、観光振興対策について、御意見をいただきたいと思ひます。

これまでの委員会では、ターゲットを絞った核となる観光地の整備、リピーター確保や地域づくりのための観光人材育成の必要性、官民一体となった情報共有の場の構築、食による観光振興、訪日外国人の受け入れ体制の整備などについての意見が出たところであります。国への意見書提出の必要性を含め、報告書に盛り込む提言などについて御意見をいただきたいと思ひます。いかがでしょうか。

先ほども食とかいろんなものが出てきたところでありますけれども。（発言する者あり）わかりました。それでは、先ほどの執行部の説明の中でも御意見が出ておりますから、我々正副委員長に任せていただいて、整理をさせていただくというふうなことでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○押川委員長 それでは、そのように進めさせていただきますと思ひます。

次に、協議事項（2）の次回委員会についてですが、次回委員会は、年明けの1月29日金曜を予定してあります。次回委員会は、必要があれば、執行部からの説明を求めるとともに、報告書骨子案について御協議いただきたいと思ひます。次回が最後の委員会となる予定ですが、これまでの委員会活動を踏まえ、次回委員会での執行部への説明・資料要求について何か御意見や御要望はございませんでしょうか。特にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○押川委員長 特にないようでするので、次回の委員会の内容につきましては、執行部をお呼びするかどうかも含め、正副委員長に御一任いただきたいと思ひますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○押川委員長 それでは、そのような形で準備をさせていただきます。

関連しますか、次回委員会の日程について御協議いただきたいと思ひます。次回委員会開催予定日前日の1月28日に、九州各県議会議員交流セミナーが熊本県で開催されます。セミナーに参加される議員は、委員会当日の1月29日に帰ってくることになるため、通常10時に開会している委員会を、午後1時30分から開催したいと考えておりますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○押川委員長 それでは、そのように決定いたします。

次に、協議事項（3）のその他で、委員の皆様から何かございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○押川委員長 ないようでありますから、最後になりますが、次回の委員会は、年明けの平成28年1月29日金曜午後1時30分開会を予定しております。

それでは、以上で本日の委員会を閉会いたします。御苦勞さまでございました。

午前11時56分閉会